

令和元年度第2回青梅市美術館運営委員会・
第2回青梅市文化財保護審議会合同会議議事録

日 時：令和元年7月11日（木）午後1時

場 所：ネッツたまぐーセンター会議室

出席委員（敬称略）

○美術館運営委員会：橋本善八、佐川美智子、横手多喜子、井土俊郎、
持田晃子

○文化財保護審議会：河東義之、稲葉政満、馬場憲一、沖川伸夫、
保坂一房、久保田正寿、西村慎太郎

欠席委員（敬称略）

○美術館運営委員会：荒井雄一、塩野麻理

○文化財保護審議会：山本勉、棚橋正道、神庭正則

事務局：浜中茂教育部長、北村和寛文化課長、
木下裕雄郷土博物館管理係長、岡本拓也郷土博物館管理係主任
小澤和征美術館管理係長、永澤雅文美術館管理係

開会（文化課長進行）

1 教育部長あいさつ

2 議長あいさつ

3 協議事項

(1) 複合化検討に関する現状と課題および意見について

事務局から、複合化検討に関する現状と課題および意見について説明。

質疑・応答・意見

【委員】今日、収蔵庫や展示室を見て、両施設を複合化することは簡単なことではなく、現実とはかなりかい離した状況だと感じ

た。市のいろいろな施設の再編計画があると思うが、明確な目的や地域市民のニーズ、地域特性を踏まえた運営の方法や内容が必要と考える。

【委員】実際に美術館と郷土博物館を比較しながら見学してみて、統合するメリットを考えたが、ほとんど無いという印象を持っている。美術館と博物館の展示室の入りが違うので、統合したことにより空間的に支障が出る可能性がある。博物館は建て替えの時期に来ているが、耐震補強すると膨大なお金がかかるので少し無理があるだろう。統合して建て替えるとなると収蔵庫と設備が一番大きな問題となる。展示室を美術館と博物館で共有するというのは無理があると思う。いずれにしても美術館と博物館が統合してもメリットが生まれる可能性は少ないと考える。もし新たに建てるなら設備と収蔵庫を中心に考えて、展示室は我慢するつもりでないと実現しないと感じた。

【委員】複合化は本当に難しそうだと感じた。美術館のところのほうが郷土博物館まで下りて行くより少しはアクセスが良くなるので利用はしやすくなると思うが、研究などの面においては無駄な時間が増え、展示の場所や研究、収蔵の場所がバラバラになっていくのかと心配である。少しでもプラスの面が出てくることを考えないといけないという印象は強く持った。

【委員】行政側として、複合施設にした場合に、博物館の収蔵品をどうしようという方針でいるのか疑問である。

【事務局】別棟収蔵庫は現状維持であり、博物館の本館を廃止するので、その部分の機能を持って来られないかということである。しかし、本館の中にも古文書や寄託品、指定文化財等の収蔵庫があり、美術館の中にも収まりきれないほどの作品があるわけで、根本的な部分を解決しないと難しいと考えている。配付の資料4は今年度、庁内で設置した検討委員会が両施設を見学した際の意見をまとめたもので、ご覧いただきたい。

【委員】美術館の収蔵庫も相当に限界を超え、保存も良くない状況な

ので、両方を見て複合化は考えづらい。例えば複合施設前提で、それでも美術館の敷地では狭いが、全部更地にして新しいものを建ちあげるのであれば分かるという感想を持った。

【事務局】複合化検討の発端は、市の公共施設再編計画の中で、既存の公共施設を3割削減するという目標から始まっている。確かに文化施設の複合化については現状とマッチしないという意見は今までもいただいております、我々も認識しているところではある。本日、現地を見ていただいた中で委員の皆様方の感想や意見をはじめ、博物館と美術館の施設のあり方について意見もいただきたいと考える。

【委員】3割削減ありきで話すと、話が広がらない。

【委員】感想になってしまうが、ハード的には非常に大きな課題があると思う。複合化とは複数のものが集まり一つになることなのでソフト面から考えていかななくてはならない。コンセプトなり方針をしっかりと固めていかないと話をしてもなかなか答えが出てこないのではと感じた。

【委員】今日、ハードの部分を見て、収蔵の問題が非常にネックだと感じた。いかに市民の理解を得られる形での複合化を目指すのか、コンセプトがないと、3割削減から始まるとイメージが作りにくいと考える。

【委員】青梅市はどのような形で発展していくべきかという、市の長期ビジョンはあると思うが、工場誘致といっても地理的な条件もあり、そうなると必然的に「文化都市・青梅」という方向に行かざるを得ないと思う。そういった場合には美術館や博物館はその核になるものであり、一律に3割削減ではなく、将来計画に基づいて選択しながら削減するのはいいが、青梅にとって重要になっている所はもっと投資しても、長期的に見れば必ず市民に返ってくるのではないか。一律に削減するのではなく、美術館や博物館は充実させていくべきと考える。

【委員】意見のまとめにも若干出ていて、今日の話題には挙がっていないが、吉川英治記念館を青梅市に寄贈するという話が持ち

上がっているのです、統合計画には吉川英治記念館も含めて考えなくてはいけないのではないかと。事実として決定しているのは、郷土博物館は耐震上駄目で、現実的な問題として郷土博物館は無くなってしまふ。無くなった時にどうするのかということの対応策として、現状では美術館に展示スペースの一部を置き、市民に今までのような展示を提供するのは非常にマイナス的なイメージがある。美術館も博物館も施設的にはかなり限界に来ているので抜本的に新しいものがほしいが、予算が限られているので複合施設を作らざるを得ない。ハード面ではなくソフト面を考えた時に学芸員の問題がある。博物館の学芸員と美術館の学芸員と一緒に共通のテーマで、歴史的な研究成果と美術史的な研究成果を重ねて新たな展示ができるのではないかと。学芸員の交流を一層深め、限られたスペースで見せていく。美術館と博物館の機能を兼ね備えた新たな複合施設に吉川英治の文学作品を取り入れ、文学と歴史と美術を総合的に考えて、新たな青梅の文化拠点を是非とも作ってほしいと考える。学校の統廃合で空きスペースが出たら、そこに考古遺物を移し、空調管理するものは貸倉庫を借りて、歴史や文学、美術など総合的に作品管理することも考えた方が良くと思う。また、たくさんの図書、図録や本は整理されているかもしれないが、一般市民はアクセスできない。国立市の場合、公民館と博物館の図書は全部整理して図書館のネットに載せてある。博物館は貸し出しはできないが、閲覧はできるといった工夫を重ねれば急場は凌げる。その後は理想をもって再編を検討し、新たな理念のもとに新館計画を是非とも立ててほしい。

【委員】青梅市も人口が減ってきて、小学校の子どもたちの数が減っている。子育て支援の活動をしており、図書館と美術館と博物館はとても身近にあって、親子でいつでも行けるところになると良いと思う。耐震で危ない建物に人は呼べないので、美術館と博物館が一緒の場所になって新しい建物になっても

構わないのではないかと思うが、いろいろな問題があることが分かった。一番大事なのは、行ってみたいと思える場所になることだと思う。

【委員】夢ばかり語っても何も先が見えないが、子どもがいて未来を担う人たちがいるわけで、そこにどう投資していくかというところを、市がぜひ踏み切ってほしいと強く思った。現状を見れば大変なのは分かるが、未来を考えられるような話を語れると良いと思う。

【委員】公共施設の3割カットは一つの規制緩和かもしれないが、基本的には、博物館と美術館は別の施設だと考えていかななくてはいけないと思う。ハード的に統合するのは物理的に可能だが、それに伴うソフトがなかったら何の意味もない。日本でも美術館と博物館が同じ施設の中に入っている場所はたくさんあるが、それなりのソフト、資料活用が伴わなければならない。それが確保されるかどうかが大切である。美術館も博物館も基本的に預かっている資料を良いコンディションで未来永劫に伝えなくてはいけないという重要な使命がある。管理が十分、将来に行き届くかということは、今の時点で非常に大事である。学芸員の問題も含めた資料の管理をきちんとしないといけない。新しい施設を作るといような理想的な話ばかりではなく、資料が死蔵になるか活蔵になるかの瀬戸際だという危機感を持ったほうが良いと考える。

【委員】青梅市の公共施設等管理計画をネットのPDFで確認し、子どもが減少、税収が減少と分かりやすく、3割削減はもっともかなと思いきや、全体を読んで、そのあと行政が一体どういうふうやっていくのか、文化行政はその後どうするのが全く抜け落ちていて、減らせばいいという計画だけで、果たして良いのかと思った。新館という少し夢のような話が出たので言わせてもらおうと、税収が低い自治体でミュージアムとライブラリーとアーカイブといったMLA連携、公民館機能も含めてMLAK連携という形で進めている場合もあり、新館を建

てることに成功しており、市民の意見聴取も必要ではないかと考える。統廃合のハード面の問題は、今日見学してよく分かった。統合することによって専門職員の伝承、あるいは専門職員自体の統廃合、事業の統廃合になってしまうこと、例えば図書館の指定管理のように、単にハード面を管理するだけの指定管理も良くないので、ソフト面の減少や統廃合が進むことを一番恐れている。

【委員】美術館と郷土博物館は、青梅市が街として発展してきたイメージが大きくあると思うので、下地として必要ではないか。この両方の委員会で考えていくべきことは、統合した結果、活性化していくイメージ作りにあると考える。

【委員】また、委員が言われたように統合する時のメリットは何かというところも引き出していく必要があり、結果として、そこはソフトである。誰にとって魅力的なものかということをよく考えた上で作っていくことだと思う。良い文化を日常のものとする人間を育てていくには少し時間がかかると思う。ある意味では再出発、そこをきちっと踏まえた上で、この問題を検討していけたらと考える。

【委員】要はスリム化、行政のダウンサイズである。そういう意味で、委員の方々への提案として、今年2月に行われた東京大学の文化資源学フォーラムで「コレクションを手放す—譲渡・売却・廃棄」というテーマのシンポジウムがあった。今後、コレクションを少しダウンサイズして、とにかくスペースを空けないと人手も予算も出てこない。そういう勉強をこれからしていく必要があると思い、文化資源学フォーラムの報告書を、委員の方々に読んでいただきたいと思う。

【委員】熊本県立美術館では、収蔵品が何らかの問題でもう使わないということで「廃棄」、「売却」、それが出来ない場合は「焼却」、それが美術品等取扱規則に載っている。多くの厚意が込められた寄贈作品が増えているので、未来永劫に亘って継承していく義務を考えたときにどうするかという問題になる。

【事務局】「5 その他」今後の日程だが、今回の意見、この意見用紙も送付するので、それらの意見を取りまとめ、今後の美術館運営委員会や文化財保護審議会で提示したいと考えている。今回の意見を取りまとめ、今後の検討課題とする。次回の会議については、個々の会議になるので日程については、後日調整する。今後、合同会議は来年2月に予定している。その際、今回いただいた意見等をまとめた検討結果の中間報告を示したいと考えている。

閉会（議長）